二〇一八年十月二十九日（月）

臥牛サロン 第四回

能 鵜飼の物語

プロデュース　田崎 甫
（宝生流能楽師）

於 臥牛敷舞台
富士宮市粟倉南町一三二
舞台当主　高橋千洋
（富士宮市中央町在住）

一　ご挨拶

二　舞［鵜ノ段］前シテ語ヨリ
［説明・謡・舞］

三　舞［鵜飼］後シテ・ロンギ・キリ
［説明・謡・舞］

四　サロンタイム

［鵜飼］（うかい）
場所・季節＝甲斐国［山梨・石和］、夏
シテ＝前シテ：鵜使いの老人
後シテ：悪鬼（閻魔王）
ワキ＝旅僧　ワキヅレ＝従僧

出演者

田崎 甫
はじめ

シテ方宝生流職分
1988年 神奈川県生まれ、叔父の宝生流能楽師 田崎隆三に師事。2011年 東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業、20代宗家宝生和英の内弟子に入る。同年「金札」で初シテ。2018年内弟子を終え独立。富士宮「羽衣教室」、九段「幸宝会」を主宰。

葛野 りさ
かどの

シテ方宝生流職分
平成元年生、富山県富山市出身。20代宗家宝生和英に師事。平成23年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。平成24年「清経」ツレにて初舞台を踏み、平成29年「田村」で初シテ。

臥牛サロン

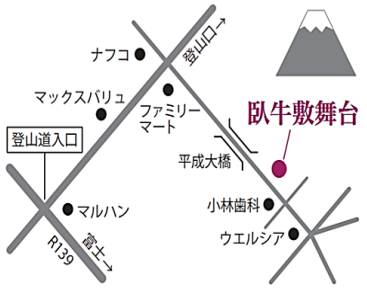
11月19日（月）18:30～ 能「敦盛」の物語
12月26日（水）18:30～ 能「三輪」の物語
翌1月21日（月）18:30～ 能「田村」の物語

お稽古：臥牛敷舞台にて【個人レッスン：謡・仕舞】

11月12日（月）
11月19日（月）
12月26日（水）
お時間はお問合せ下さい。
※見学歓迎

臥牛敷舞台

富士宮市粟倉南町132
臨時駐車場：裏手に隣接の空き地



ホームページ：
田崎甫「能への一歩」
http://www.noh-ippo.jp

田崎甫「羽衣教室」お問合せ先・「臥牛サロン」お申込み

☎ 0545-38-9939　(たざき)
090-2757-0620　(たざき)
メール：hajime-noh-ippo@outlook.jp ➡
hajime-noh-ippo@outlook.jp
運営：たのじ合同会社（代表 田嵜玄吾）
〒417-0047　静岡県富士市青島町１９５番地の３
グレース富士603号

前シテ・語

シテ「抑この石和川と申すは　上下
三里が間は堅く殺生禁断の所なり
今仰せ候岩落辺に鵜使いは多し
夜な夜な忍び上って鵜を使ふ
憎き者の仕業かな
彼を見あらわさんとたくみしを
それをば夢にも知らずして
又或夜忍び上って鵜を使ふ
狙う人々ばっと寄り
一殺多生の理にまかせ
彼を殺せといひあへり
その時左右の手を合せ
かかる殺生禁断の所とも知らず候
向後の事をこそ心得候べけれと
手を合せ歎き悲しめども
助くる人もなみの底に
ふしづけにし給へば
叫べど声の出でばこそ
これこそ其時の鵜使の亡者にて候
跡を弔うて給はり候へ

前シテ・語（続き）

ワキ「さては其時の鵜使の亡
者にて候か
さあらば罪障懺悔に
業力の鵜を使うて御見せ候へ
ワキ「跡をば懇に弔ひ候べし
シテ「既に此夜も更け過ぎて
鵜使ふ頃にもなりしかば
いざ業力の鵜を使はん
ワキ「これは他国の物語
死したる人の業により
かく苦しみの憂き業を
今見る事の不思議さよ

鵜の段

シテ「しめる松明振り立てて
ワキ「藤の衣の玉だすき
シテ「鵜籠を開き取りいだし
ワキ「島津巣おろし荒鵜ども
シテ「この川波に　ワキ「ばっと
シテ「放せば

鵜の段（続き）

地「面白の有様や　面白の
有様や　底にも見ゆる篝火に
驚く魚を追ひまはし
かづき上げすくひ上げ
隙なく魚を食ふ時は
罪も報も
後の世も忘れ果てて面白
や　漲る水の淀ならば
生簀の鯉や上らん玉嶋川
にあらねども
小鮎さばしるせぜらぎに
かだみて魚はよもためじ
不思議やな篝火の
燃えても影の暗くなるは
思ひ出でたり月になりぬ
る悲しさよ
鵜舟の篝影消えて　闇路に
帰るこの身の名残惜しさ
を　いかにせん名残惜し
さをいかにせん

後シテ

シテ「それ地獄遠きにあらず
眼前の境界
悪鬼外になし
そもそも彼の者
若年の昔より
江河に漁ってその罪おびた
たし
されば鉄札数を盡くし
金紙をよごす事もなく
無間の底に
堕罪すべかっしを
一僧一宿の功力に引かれ
急ぎ仏所に送らんと
鵜舟を弘誓の船になし
法華の御法の助け舟
地「篝火も浮むけしきかな
シテ「迷ひの多き浮雲は
地　「実相の風荒く吹いて
千里が外も雲晴れて
真如の月や　出でぬらん

ロンギ

地　「有難の御事や
奈落に沈む悪人を
仏所に送り給ふなる
その瑞相のあらたさよ
シテ「法華は利益深き故
魔道に沈む群類を
救はん為に来りたり
地　「げに有難き誓ひかな
妙の一字はさていかに
シテ「それは褒美の詞にて
妙なる法と説かれたり
地　「経とはなどや名づくら
ん
シテ「それ　聖教の都名にて
地　「二つもなく
シテ「三もなく
地　「唯一乗の徳によりて
奈落に沈み果てて浮み難き
悪人の　仏果を得ん事は
この経の力ならずや

キリ

地　「これを見かれを聞く時は
これを見かれを聞く時は
たとひ悪人なりとても
慈悲の心を先として
僧会を供養するならば
その結縁に引かれつつ
仏果菩提に至るべし
げに往来の利益こそ
他を助くべき力なれ
他を助くべき力なれ

右：前シテ 鵜使いの老人
左：後シテ 悪鬼（閻魔王）